

沖縄SVのご紹介とスポーツを核とした地域創生プロジェクトについて



沖縄 SV 株式会社



沖縄SVのご紹介

沖縄SV（エスファウ）※1サッカー元日本代表であり、Jリーグをはじめ海外リーグなどで活躍した高原直泰が2015年12月に沖縄県うるま市を拠点に設立したサッカーを中心としたスポーツクラブです。

国内・海外とプロの世界で得たノウハウ、経験、ネットワークなどすべてを注ぎ込み、うるま市ならびに沖縄の皆様と共に、新たなスポーツ文化の創生を目指します。

現在は、沖縄をはじめ関東地区にてサッカーチームのセレクションを終え、この春から沖縄3部リーグに出場し、最速にてJリーグ昇格を目指します。また、地域活動の一貫として、沖縄各地にてジュニアセレクション、サッカースクールも開校。

沖縄県民の一員として、さらには沖縄SVとして、スポーツを通じて、地域活性（創生）に取り組んでいます。

※1

正式なチーム名は『沖縄 Sport-Verein』。「オキナワ・シュポルト・フェアアイン」と呼びます。ドイツ語で「沖縄スポーツクラブ」。略称は『OSV』、「オー・エス・ファウ」と呼びます。

沖縄SVを発足した経緯

沖縄には、スポーツチームや施設などスポーツ文化を創生する上で大きなメリットが3つあります。沖縄SVのビジョンは、以下の3つの要素から構築されていきます。

人材の魅力

ここ沖縄は、全国でもトップレベルの潜在能力を持つ、優秀な選手を数多く輩出しています。しかし、それら優秀な選手は、本州の強豪校へと進学してしまうのが現状です。もし、沖縄に中高一貫で育成ができ、そしてトップチームがあるクラブチームがあれば、優秀な選手を手放すことなく、沖縄の地で、一流のサッカー選手として活躍できる環境を提供できると考えます。

地理的な魅力

日本ばかりではなく、アジアも含めた広がりやつながりを考えると、グローバルの主要拠点は沖縄になります。海外との距離も近く、交流も行いやすい。沖縄SVとして、常日頃から国際的な観点をもって事業を行うことで、グローバルな総合スポーツクラブとして、世界中からアスリートが集まる施設に昇華できると考えます。

気候の魅力

沖縄の温暖な環境はリハビリやトレーニングに最適であり、多くのアスリートが心身ともに療養でき、さらには、効率的に技術を向上できる。また東南アジアのサッカーレベルは急成長しています。亜熱帯に近い気候に、常に適応したチームを創ることは、今後アジアのトップで居続けるためにも必要不可欠になります。まさに沖縄にしかできない環境を提供できると考えます。

この3つの魅力こそ、沖縄SVが目指す、サッカーをはじめとしたスポーツ文化の向上に必要な要素であると考え、沖縄県うるま市に拠点を決めた理由です。

沖縄SVのスポーツを中心とした事業プラン・今後のビジョン①

【プロスポーツチームの運営】

サッカーチーム 沖縄SVの創設

※沖縄にて事業展開中



2015年、元日本代表であり、海外とのネットワークもある高原直泰がうるま市において、新しいサッカーチーム「沖縄SV」を立ち上げました。すでに選手兼監督として、沖縄に移住しており、シーズンに向けチーム作りを進めています。また、サッカーチームだけではなく、テニス・バスケ・野球・バスケットボール・マリンスポーツなど、トップアスリート指導による各種チームづくりも徐々に展開する予定です。

【トレーニング施設の運営】

キャンプ地・リハビリ リゾートの創設



トップアスリートのコンディション調整、リハビリ、体力増強に加え、地域の方々への健康増進、体力維持のためのトレーニングメニューの提供、食育セミナー等による体質改善メニューなどを地域の方へ提供し健康立県復活に貢献します。キャンプ地としては、大学・高校・ユースチームのキャンプを誘致。市内外のチームとの合同練習やマッチメイクを実施し沖縄県のスポーツレベルの向上を実現します。

【スポーツ大会の運営】

少年サッカー国際大会の創設・ トップチームのマッチメイキング



※写真はイメージです。

沖縄を少年サッカーの聖地として位置づけ、全国大会や高原直泰の人脈を生かしたドイツ少年チームとの交流戦を実施します。また、サッカーの名門クラブを多数輩出するドイツとの交流を行うことで、地元の子どものグローバル・スタンダード志向を育てます。なお、世界トップレベルの試合を沖縄県内での開催を誘致することで、スポーツを通じた県民の醸成をはかり、それに関連した産業の育成を行います。

【トップアスリート養成スクールの運営】

サッカースクールの創設

※ジュニアユースの育成は始動中。
※サッカースクールは開校中



ジュニアユースの育成はすでにうるま市にてセレクションを終え、沖縄在住の若手育成にも力を入れています。また、沖縄SV所属の選手たちや専属コーチが、沖縄のサッカー少年たちに向け、沖縄各地にてスクールを開校。今後はサッカーだけではなく、夢を持って訪れる青少年に最適なスポーツを見出し、そして、世界でも戦える選手たちを育てます。最終的には、IMGアカデミーのような総合施設を目指します。

沖縄SVのスポーツを中心とした事業プラン・今後のビジョン②

【スポーツ関連産業の育成】

スポーツを支える インキュベート施設の提供



※写真はイメージです。

スポーツ関連産業やスポーツ医療の研究施設を誘致し、スポーツ産業の育成及びアスリートや一般の方々から得られるデータを蓄積し補装具や製品開発・販売の施設として提供します。また、沖縄県民の皆様にも気軽に利用できる施設として福祉社会にも貢献します。

(スポーツ関連産業等)

【食育事業の運営と地域直売所との連携】

自然栽培農業



沖縄SVの監督、そして選手たちが、実際に田畑を耕し、自然栽培にて農作物を作ります。アスリートのセカンドキャリアとしても、農業の可能性を広げる今までにない取り組みを行います。また、自然栽培にて育てた農作物を食育事業のメインとすることで、身体に安心安全の食育を沖縄から全国・アジアへと広げていきます。

【沖縄SV×沖縄産業の物販事業】

- 沖縄SV 野菜マルシェ
- 沖縄SV 伝統工芸
- 沖縄SV ビーチバー



自然栽培農法で育てた作物と、地域で生産された作物（地域の直売所の作物）を中心に、マルシェを開催します。また沖縄の伝統工芸品とのコラボレーションも行い沖縄ブランドを沖縄SVがスポーツを通じて広げていきます。

※沖縄SVのマークは、沖縄の伝統的な柄がモチーフになっています。

【宿泊施設・レストランの運営】

宿泊施設スポーツリゾート オーガニックレストラン



※写真はイメージです。

スポーツをするための簡易宿泊所（合宿施設）を創るほか、将来的には、リゾート&スポーツを掲げ、沖縄のリゾート施設の新しいカテゴリーとされるような宿泊施設を作ります。また、地産地消を基本に、沖縄SVで生産する農作物、そして、地元農家の生産物を使った完全オーガニックレストランを運営します。将来的には、地域高齢者への弁当の宅配サービスなども行います。

地域貢献・地域創生への取り組みについて

沖縄SVの事業プラン・ビジョンの基本にあるのは、スポーツを核にした地域貢献と地域創生、さらにはJリーグ百年構想※です。

Jリーグを目指すチームとして、沖縄県の皆様と一緒に創り上げるための地域貢献・創生のための施策を以下3つに分けてご紹介します。

拠点場所について

沖縄県外へのPRについて

農業と伝統工芸事業

※Jリーグ百年構想について

Jリーグは「**地域に根差したスポーツクラブ**」を核として、誰もが生涯を通じてスポーツを楽しめる環境をつくり、Jリーグの理念の一つである「豊かなスポーツ文化の醸成」を具現化することを目指しています。

その構想の活性化を目指し、1996年2月に「Jリーグ百年構想 ～スポーツで、もっと、幸せな国へ。～」というスローガンを掲げ、「緑の芝生に覆われたスポーツ施設や広場を作る」、「サッカーを核に様々なスポーツクラブを多角的に運営し、アスリートから生涯学習にいたるまであなたが今やりたいスポーツを楽しめる環境作りを目指す」、「スポーツを通して様々な世代の人たちが触れ合える場を提供する」ことを目的とし、啓蒙活動を続けております。

沖縄SVは「Jリーグ百年構想」理念に賛同し、「**地域に根差したスポーツクラブ**」を目指し、沖縄地域全体の活性化に貢献致します。

拠点場所について ※与那城庁舎 跡地利用公募 応募中

現在(4月5日時点)沖縄SVは、事業プラン・ビジョンを成功させるために、沖縄県うるま市が公募しておりました「与那城庁舎跡地利用」に応募中です。

うるま市から沖縄、そして全国、世界へ。
与那城庁舎を沖縄SVの総合拠点とすると共に、人々の交流の場となり、地域貢献・地域創生の場となることを目指しています。

沖縄SVでは、うるま市の課題に対して貢献できることを中心に、本企画書でご紹介した事業プラン・ビジョンを提案しております。



※沖縄県うるま市与那城庁舎全体イメージパース

沖縄SVが貢献できること

- スポーツイベントを通じ、地域の一体化と人々が触れ合える拠点を作ります。
- スポーツを中心とした関連事業を立ち上げ、産業の育成、雇用の創出を図り、うるま市の課題に貢献します。
- うるま市の恵まれた施設を整理し施設目的を明確することにより、施設が持つポテンシャルを最大限に引き出し有効活用を図ります。
- 教育とスポーツを絡めた、世界に通用する人材の育成を図ります。

沖縄県うるま市に貢献できること

- 地域の交流拠点整備
- 産業の育成雇用の創出
- 施設の維持管理コストの軽減
- 人材育成

与那城庁舎を中心とし、沖縄県うるま市民の暮らしやすさの向上や雇用の創出、地元産業の安定と発展を目指し、全国に誇れるまちづくりのお手本となるよう取り組んでいきます。

沖縄県外へのPRについて

沖縄県（うるま市）の地域資源・地元力×高原直泰のブランド力及び全国、海外への発信力

- スポーツに関連した話題
- 地域資源（農業や工芸）の話題
- 地元力（観光や人の魅力）の話題

沖縄SV（高原直泰）が全国、海外へメディア（資料参照）を通じ発信していきます。



高原の注目度・発信力を活用し、人材・地理・気候に加え移住したからこそわかる沖縄（うるま市）の魅力や可能性を実体験をもとに全国・世界に発信します。

発信だけではなくツナガリを創りスポーツから地域交流していきます。

地域資源(農業・伝統工芸)事業について



サッカーチームが地域貢献するためには、試合やスクールばかりではなく、地域社会と協働する仕組みが必要です。

そのために、サッカーファンをメインターゲットに、沖縄SV(スタジアム及び周辺地域)を活性装置とします。

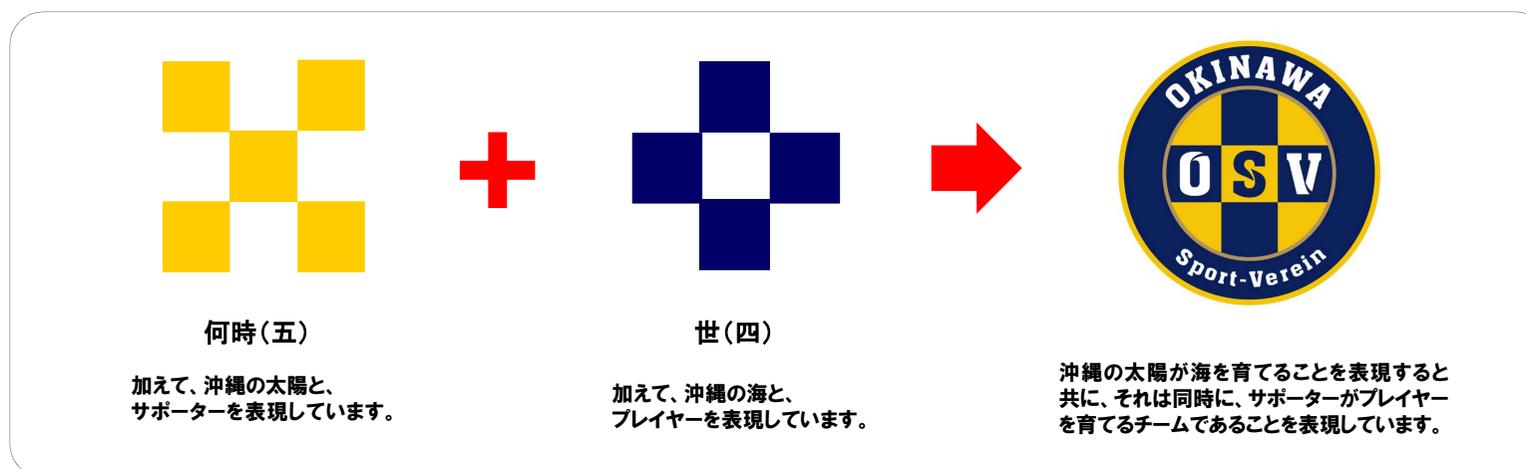
まずは、その第一フェーズとして、沖縄の伝統工芸品(工芸士)ならびに農業(農家)と協働します。

沖縄SVを通じて、多くのサッカーファンや潜在ファンが、沖縄の魅力を知り、サッカー「+α」のファンになる。

ここに、新しいサッカーチームの地域への貢献の在り方が始まります。

伝統工芸品事業について

沖縄SVのシンボルとして使用させていただいた
沖縄の伝統的な柄のモチーフを様々な伝統工芸品で展開します。



沖縄(八重山)が何百年と大切にしてきた、この伝統的なモチーフに込められた「何時の世までも末永く」という願い、そして、沖縄の太陽と海の素晴らしい関係性を、沖縄SVのファンやスタジアムに訪れるあらゆる人々に知ってもらいます。

伝統工芸品については、陶磁器、織物(メンサー)をはじめ、沖縄の伝統工芸に、モチーフをベースに様々なドットのデザインを展開。受注生産にて沖縄SV限定にて作っていただきます。

沖縄SVのファンはもとより、多くの人々にとって、このモチーフを使用した伝統工芸品たちは、
結束を誓い合う最高のシンボル(一生もの)になるはず

伝統工芸品事業について 具体的な展開イメージ

【沖縄SVのモチーフを使用した伝統工芸品の発売】

例えば、応援時に欠かせない定番のタオルをはじめ、琉球かすりで作られたサポーター用のオープンシャツを開発。試合会場はもとより、小売店にて販売します。また、琉球かすりの「柄」を、陶磁器、琉球ガラス、メンサーなどの伝統工芸品にライセンスにデザインし、沖縄SVとのコラボ商品として販売するなど考えられます。



【沖縄SV試合会場ならびアンテナショップでの発売】

沖縄各地の伝統工芸品をセレクト販売すると共に、沖縄SVオリジナルの伝統工芸品グッズを販売するアンテナショップになります。集客にも一役買えるような、洗練されたセレクトショップとします。また、販売員は、地域の人を採用するなど、雇用の創出も同時に行います。



※写真はイメージです。

【沖縄SVの選手たちによる伝統工芸品のPR活動-WEB配信-】

沖縄SVの監督（高原直泰氏）をはじめ、選手たちが、沖縄の文化をリアル体験。その様子を沖縄SVのホームページにて掲載することで、沖縄SVサイトを訪れるファンに、その魅力を紹介していきます。※WEBへのアクセスは、ライバルチームのファンなどが多くアクセスするため、県外、さらにはドイツ、アジアへのファン（潜在的旅行者）の獲得に結びつきます。



【サポーター向け伝統工芸品のワークショップを開催】

スタジオに訪れたサポーターと工芸作家の出会いの場を創ります。スタジオばかりではなく、観光客が立ち寄れる場所でもオリジナルデザインの伝統工芸品の展示会を催します。工芸品としての芸術性はもとより、民藝品などは、永続的に使用できるノウハウを工芸士に学びます。重要なのは、買ってもらうだけではなく、伝統をしっかりと後世に伝えていく仕組みを創ることです。



※写真はイメージです。

【沖縄SVのフリー・ペーパーで伝統工芸品の特集記事を連載】

フリー・ペーパーも、情報を共有するには、重要なプロモーションツールです。チーム状況や今後の試合予定、選手インタビューなどに加え、地域活性・地域密着として、伝統工芸への取り組みや魅力を連載にて掲載していきます。沖縄県をはじめ、東京や大阪など、配布先を拡げ、沖縄の魅力を最大限にアピールします。



町田ゼルビア フリー・ペーパーの発行
アートとフットボールの関係を特集

【ECサイトを運営しコラボレーションした工芸品をオンライン販売】

沖縄の各種伝統工芸品をはじめ、沖縄SVとコラボレーションした限定の伝統工芸品がWEBで買えるECサイトを構築します。③のWEBプロモーションと合わせて展開することで、伝統工芸品の魅力（民藝の魅力）や歴史、長く使いたいと思わせる付き合い方などを知り、暮らしを豊かにしていく、社会性の高いECサイトを目指します。



※青山スクエア WEBSITE

農業(自然栽培)について

選手たちが休耕地を蘇らせ、野菜や米を育て、沖縄の農家と共に農業の活性化をはかります。沖縄SVの新事業、そして選手たちのセカンドキャリアも見据えながら、「自然栽培パーティ」に参加します。

沖縄SVとして「自然栽培パーティ」に参加します。監督、そして選手たちが、練習の合間に実際に田畑を耕し、自然栽培の農作物を自然栽培という農法にて丹精込めて作ります。沖縄SVで引退した選手たちのセカンドキャリアとしても、可能性を拡げる今までにない取り組みを行います。将来的には、沖縄スーパーフードを食材に入れた、地産地消のレストラン、食育スクールなどへの展開も想定しています。

●「自然栽培」とは太陽、水など自然の力だけを頼りに、土の中のバクテリアの働きのみで米や野菜や果樹などを育てる栽培方法です。

●「自然栽培パーティ」とは、「奇跡のリンゴ」木村秋則氏の一番弟子である佐伯康人氏が中心となり、農林水産省の障害者が農業に取り組む活動<農福連携>を元に、自然栽培だけに絞り、全国の障害者施設が手を取り合って助け合って、障害者にあった仕事づくりに挑戦する事業です。全国の休耕地をはじめ、棚田などの耕作休耕地を田んぼや畑に戻し、無農薬・無肥料で、いのちの力みなぎるコメ、野菜、果樹を育てます。みんなで自然栽培をひろめて、ニッポンを健康にします。現在、全国で20施設の障害者施設が参加し、たくさんの自然栽培の農作物が育っています。



●佐伯氏による自然栽培のレクチャーを受ける高原。



●自然栽培パーティは、すでに沖縄で始まっています。
自然栽培パーティ沖縄支部
合同会社ソルファコミュニティ

農業(自然栽培)の具体的な展開イメージ

【沖縄SVの選手達が沖縄の休耕地で自然栽培を実施】

自然栽培パーティに参加することで、指導をもとに、高原監督を含め、選手たちが休耕地を開拓して、自然栽培で農作物を作ります。農家の方々にもご協力頂きながら、ひとつひとつ、大切に育てます。

また、自然栽培パーティの目的の一つである「農福連携」を念頭に、障害者の雇用も率先して行います。



沖縄SVの選手たちは、実際に自然栽培を体験しています。

【試合会場や地域店で「沖縄SV自然栽培マルシェ」として販売】

選手達(と地域の農家)が育てた農作物は、試合会場や地域のお店などで販売。試合等が重ならない時は、選手や監督が自ら販売。チームの地域交流も行います。将来の展開としては、沖縄SVにてレストランを開業。自然栽培で育てた安心安全な沖縄フードが食べられる場を提供します。



※自然栽培パーティのマルシェ活動

2015年11月10日、厚生労働省にて、農福連携マルシェが開催され、塩崎厚生労働大臣、佐藤農林水産大臣政務官はじめ多くの方がお見えになり、野菜もあっという間に完売しました。

【アスリートを育てる食育セミナーや農作体験を定期開催】

一流のアスリートを育てるサポートとして、食育への注目は日に日に高まっています。沖縄SVでは、自然栽培の安心安全で栄養価の高い食材、さらには沖縄独自の「スーパーフード」などで、日本有数の食育事業を展開。また沖縄全体に拡げるためにセミナーを開催します。



※写真は御殿場高原 時之栖

【沖縄米の共同開発(ブランド化)】

自然栽培パーティの指導者である佐伯氏と共に、沖縄にて自然栽培による米作りに挑戦します。自然栽培で育てた日本一早い米、そして味わい深い米を作り、将来的にはブランド化していきます。2015年に始まった自然栽培パーティですが、参加した本州の5施設すべてにおいて豊作となりました。



左は、慣行農法で育てた苗。右は、自然栽培パーティで育てた稲。どちらもひとつの苗から育てた結果です。

【二次加工品・沖縄スーパーフードなどの加工・栽培】

・自然栽培で育てた農作物を加工(クッキーやチョコ、チップスなど)することで、地域の二次産業の活性を実現します。

・沖縄独自のスーパーフードを自然栽培し、自然栽培パーティを通じ、日本全国に展開します。

・レストラン事業を行い、新たな雇用の場所を創造します。



自然栽培パーティに参加している施設の加工食品。WEBにて全国で発売しています。

スポーツを中心にした地域創生、その中における沖縄SVの役割について

サッカーをはじめ、スポーツ事業そのものは、すでに動き、明確なビジョンを想定し目的達成(※資料参照)のために、沖縄SVは活動しています。

加えて、沖縄伝統工芸品や農業(自然栽培パーティ)への参加も有識者と接点を持ち、事業として進展しています。

上記活動に加え、地域がより豊かになるためには、事業の拡大へと導く、さらなる出会いの場や他産業の動向把握など、オープン・イノベーション誘発の仕組みが必要であると実感しています。

内閣府沖縄総合事務局が提唱している「**SiS Okinawa(仮称)**」※1は、そのような場として沖縄SVとしても大きな期待を寄せており、

このような場を通じて、県民とともにスポーツで未来の沖縄を創生する一翼を担っていく所存です。

(脚注)※1

SiS[Sports Industry in South Islands]Okinawa(仮称)

沖縄スポーツ産業クラスターを充実・加速させ、常に沖縄がスポーツビジネスの聖地として認知されるために、ヒト・モノ・カネ・情報等呼び込み、オープン・イノベーションを誘発するための仕組み(イベント)

沖縄SVにとって、SiSの開催が事業拡大の礎に



スポーツを通じ、農業・伝統工芸品における活性事業を皮切りに、
沖縄の地域創生の一役を担う総合スポーツクラブとして、
SiS Okinawaの開催は、沖縄SVにとって、大きな出合いの場となります。

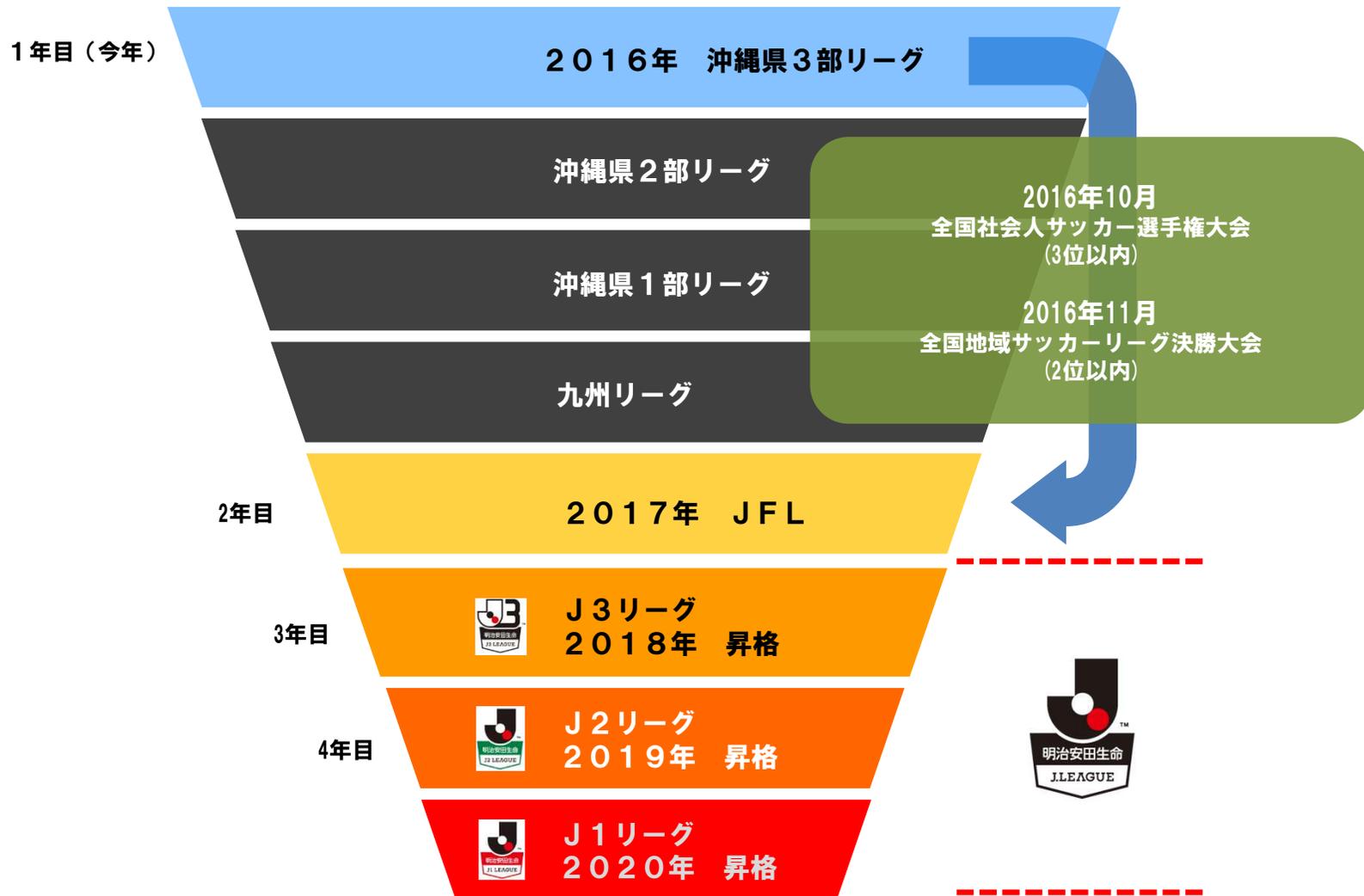
資料



沖縄 SV 株式会社

沖縄SV 資料(沖縄SV Jリーグまでのロードマップ)

飛び級制度により、最短3年でJ3リーグへ



沖縄タイムス

沖 縄 タ イ ム ス

高原、来季県3部参戦

サッカー元日本代表の高原直泰(36)が1日、代表を務める新チーム「沖縄SV」設立会見を那覇市の沖縄総合事務局で行い、ドイツチームの選手兼監督就任を発表した。来季から県3部リーグに参戦予定。Jリーグ入りを目指し、ジュニアやユースの育成施設も整備する。ドイツ部リーグで活躍した高原は「組織で一緒にトレーニングし、世界に羽ばたかせる選手を育てたい」と意気込みを語った。

11月末にJ3柏権原を退団。「今住んでいる家と車は売って、沖縄に骨を埋めるつもりで取り船」と決意を語った。

高原は1月、沖縄にスポーツ総合施設をつくるため、元プロサッカー選手の福水祥三や元柔道選手の野村浩宏などと共同で那覇市に株式会社「アスリートアライド」を設立。第一歩としてサッカーチームを立ち上げた。

「沖縄の有望な選手が県外に出ていってしまう。その受け皿になりたい」と語った。

「SV」はドイツ語でスポーツクラブを意味し、将来的にはラグビーやテニス、柔道の選手育成も視野に入れているという。この那覇市、金武町、宮城町に活動拠点を置く。選手は高原のみで、手はアマチュア限定で、仕事と両立できるようにしたいという。

事をお任せにする体制へを自指す。現在、選手は高原のみで、沖縄と埼玉でトレーニングを実施する。

20日午前の時から埼玉スタジアム2002へ参加費5千円、来季1月15日午前10時から金武町陸上競技場(15日)で練習開始。

問い合わせ先: kinawasv.com

沖縄SV設立 金武で来月セレクション

Jリーグ入り目指す 世界向け選手育てる



チームのロゴを指さし、笑顔を浮かべる高原直泰選手兼監督＝那覇第2地方合同庁舎

◆ドイツ語で「沖縄スポーツクラブ」 沖縄SVの正式名称は「沖縄Sport-Verein(オキナワ・シュポルト・フェアイン)」。ドイツ語で沖縄スポーツクラブを意味する。略称はOSV(オー・エス・ファウ)。高原直泰がドイツ・ブンデスリーグで初めて所属したハンブルガーSVが由来。

琉球新報

日刊スポーツ

第3種郵便物認可 東京 玉求 楽軒 神紀

サッカーチーム「沖縄SV」設立

高原「骨埋める」



「世界を拓きたい」という思いで、サッカーチーム「沖縄SV」の設立を断念した高橋正典氏が、今年10月に、地元沖縄でサッカーチーム「沖縄SV」を設立し、自ら監督を務めることになった。高橋氏は、地元沖縄でサッカーチームを設立し、自ら監督を務めることになった。高橋氏は、地元沖縄でサッカーチームを設立し、自ら監督を務めることになった。

引退会見明かす
今季限りで引退する高橋正典氏(38)が7日、引退会見を行った。高橋氏は、地元沖縄でサッカーチームを設立し、自ら監督を務めることになった。高橋氏は、地元沖縄でサッカーチームを設立し、自ら監督を務めることになった。

元日本代表2人が選手育成の夢
元日本代表の高橋正典氏と、元日本代表の鈴木隆行氏が、地元沖縄でサッカーチームを設立し、自ら監督を務めることになった。高橋氏は、地元沖縄でサッカーチームを設立し、自ら監督を務めることになった。

スポーツ総合施設設計画
サッカーチーム「沖縄SV」の設立を機に、チームの代表を務める元日本代表FW高橋正典氏は、県内でトップ選手の練習や子どもたちの育成ができるスポーツの総合施設の建設を目指していることを明かした。元クラブ一選手の権永昇三氏がらむ、ちるま市に権永昇三氏が立ち上げた、高橋正典氏と元選手に野村忠宏氏が共同出資した。沖縄SVの設立を皮切りに、将来的にはラグビー、柔道、ゴルフなどさまざまな種目へ拡充させるといふ。

世界目指す子どもも育成へ
高橋氏は、いろいろなスポーツを経験してきたトップアスリートがトレーニングできるものを目指していきたい」と話した。

選手まだ俺一人沖縄SVに立ち上げ
高原「選手兼監督」

「沖縄SV」の設立会見で、選手兼任監督就任を表明する高原

来年中にS級ライセンス「海外」も
鈴木隆行は「監督」

引退会見に臨む千歳FW鈴木隆行




引退会見明かす
今季限りで引退する高橋正典氏(38)が7日、引退会見を行った。高橋氏は、地元沖縄でサッカーチームを設立し、自ら監督を務めることになった。高橋氏は、地元沖縄でサッカーチームを設立し、自ら監督を務めることになった。

元日本代表2人が選手育成の夢
元日本代表の高橋正典氏と、元日本代表の鈴木隆行氏が、地元沖縄でサッカーチームを設立し、自ら監督を務めることになった。高橋氏は、地元沖縄でサッカーチームを設立し、自ら監督を務めることになった。

スポーツ総合施設設計画
サッカーチーム「沖縄SV」の設立を機に、チームの代表を務める元日本代表FW高橋正典氏は、県内でトップ選手の練習や子どもたちの育成ができるスポーツの総合施設の建設を目指していることを明かした。元クラブ一選手の権永昇三氏がらむ、ちるま市に権永昇三氏が立ち上げた、高橋正典氏と元選手に野村忠宏氏が共同出資した。沖縄SVの設立を皮切りに、将来的にはラグビー、柔道、ゴルフなどさまざまな種目へ拡充させるといふ。

世界目指す子どもも育成へ
高橋氏は、いろいろなスポーツを経験してきたトップアスリートがトレーニングできるものを目指していきたい」と話した。

沖縄SV 資料(メディア掲載)

琉球朝日放送



テレビ朝日「やべっちF.C.」



サンケイスポーツ

SANSPO.COM

サッカー元日本代表・沖縄SV監督兼選手 高原「沖縄のためのチームを作る」

サッカー元日本代表FWでサッカークラブ沖縄SV(エス・ファウ)の代表取締役を務める、監督兼選手の高原直泰(36)が28日、沖縄・うるま市で開催された「スポーツ産業イノベーションフォーラム in うるま市」に参加し、トークセッション「うるま市に身を置いた高原」を行った。高原は「選手として思い描いたことはひと通りできた。今度は、地域のためのチームを作りたい」と話した。

正式名称はドイツ語で「オキナワ・シュポルト・フェアイン」。2月から活動を始めた沖縄SVは現在、16選手と契約し、4月に開幕する沖縄県3部リーグからJ入りを目指す。

28日に開催されたフォーラムでは、島尻安伊子内閣府特命担当大臣らが出席するなど行政側も力を入れている。うるま市にはスポーツ施設が充実しており、沖縄SVはサッカーだけでなく、総合スポーツクラブを目指している。

高原はJ3相模原で2シーズンを過ごしたが、一念発起して沖縄SVの設立のために、私財をなげうって沖縄に移住。住民票も移した。クラブ代表、監督、選手と三役をこなす。多忙な日々を送るが、地域の飲食店にも足を運び住民との交流を図っている。

「1年ごとに基盤を作って、6年後にJリーグにたどり着ければいい」。3月下旬にはジュニアユースも創設。高原をはじめ、選手がコーチ役として指導し、未来のJリーガーを育てていく。選手から、クラブを育てる存在へ。高原が描くサッカー人生の第2幕が始まった。

高原 直泰 (たかはら・なおひろ) 1979(昭和54)年6月4日生まれ、36歳、静岡・三島市出身。静岡・清水東高から1998年にJリーグの磐田に入団。アルゼンチン、ドイツ、韓国など9チームでプレー。沖縄SVの代表、監督兼選手に就任した。日本代表では2006年ドイツW杯など57試合に出場し、23得点。

Jリーグ通算309試合で99得点。1780、774点。

うるま市 沖縄県本島中部に位置し、那覇空港から車で約1時間。2005年に具志川市、石川市、中頭郡勝連町・与那城町の2市2町が合併し誕生。人口は約12万人で、那覇市、沖縄市に次いで3番目の都市。

市名は「サンゴの島」を意味する古い沖縄方言(ウチナーグチ)に由来する。島袋俊夫市長。

沖縄県 東シナ海 太平洋 那覇市 うるま市 20km

YAHOO! ニュース

トップ 速報 写真 映像 雑誌 個人 ビジネス 特集

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT・科学 ライフ 地域

元日本代表で沖縄SV監督兼選手・高原「沖縄のためのチームを作る」

サンケイスポーツ 2月29日(月)17時0分配信

サッカー元日本代表FWでサッカークラブ沖縄SV(エス・ファウ)の代表取締役を務める、監督兼選手の高原直泰(36)が28日、沖縄・うるま市で開催された「スポーツ産業イノベーションフォーラム in うるま市」に参加。トークセッションはアスリートアイランド代表取締役で元ラグビー選手の福永昇三氏(40)、柔道男子で五輪3大会連続金メダリストの野村忠宏氏(41)、プロ野球・元阪神の松山進次郎氏(46)がスポーツにおける沖縄の魅力について語った。

温暖で恵まれた沖縄・うるま市に身を置いた高原が、新たな船出を決意した。

「選手として思い描いたことはひと通りできた。今度は、地域のためのチームを作りたい」

正式名称はドイツ語でスポーツクラブを意味する「オキナワ・シュポルト・フェアイン」。2月から活動を始めた沖縄SVは現在、16選手と契約し、4月に開幕する沖縄県3部リーグからJ入りを目指す。

28日に開催されたフォーラムでは、島尻安伊子内閣府特命担当大臣らが出席するなど行政側も力を入れている。うるま市にはスポーツ施設が充実しており、沖縄SVはサッカーだけでなく、総合スポーツクラブを目指している。

高原はJ3相模原で2シーズンを過ごしたが、一念発起して沖縄SVの設立のために、私財をなげうって沖縄に移住。住民票も移した。クラブ代表、監督、選手と三役をこなす。多忙な日々を送るが、地域の飲食店にも足を運び住民との交流を図っている。

「1年ごとに基盤を作って、6年後にJリーグにたどり着ければいい」。

3月下旬にはジュニアユースも創設。高原をはじめ、選手がコーチ役として指導し、未来のJリーガーを育てていく。選手から、クラブを育てる存在へ。高原が描くサッカー人生の第2幕が始まった。

最終更新:2月29日(月)8時40分

SANSPO.COM

沖縄SV 資料(メディア掲載)

沖縄・北方担当大臣 島尻安伊子氏 SNSより

Twitter

 島尻あい子
@shimajiriako

フォロー

本日は、うるま市からの視察。スポーツ産業イノベーションフォーラムに参加しました。サッカー元日本代表で現在、沖縄SV代表の高原直泰さんにご挨拶。うるま市に住民票も移したそうです。沖縄SVがJリーグの舞台で活躍できるよう私も応援します！



18
リツイート

7
いいね

17:42 - 2016年2月27日

Facebook

facebook

 島尻 あい子さんが写真3件を追加しました — 場所: うるま市
2月27日 17:35

本日は、うるま市からの視察。スポーツ産業イノベーションフォーラムに参加しました。

五輪三連覇、柔道家の野村忠宏さん、元阪神の松山進次郎さん、サッカー元日本代表の高原直泰さん、ラグビーからは元トップリーグの福永昇三さん。

豪華な顔ぶれで「トップアスリートから見た沖縄の魅力」と題して、トークセッションを行います。

沖縄の魅力を存分に語っていただければと期待しています。



いいね! 309件 コメント2件 シェア2件